

平成22年3月期 第2四半期決算短信

平成21年10月30日

上場取引所 東 名

上場会社名 株式会社 ショクブン

コード番号 9969 URL <http://www.shokubun.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長

(氏名) 川瀬 公

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長

(氏名) 田野 光夫

四半期報告書提出予定日 平成21年11月6日

配当支払開始予定日

TEL 052-773-1011

平成21年11月30日

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第2四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	5,195	△3.8	10	—	△46	—	△50	—
21年3月期第2四半期	5,402	—	△39	—	△74	—	△87	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	△4.53	—
21年3月期第2四半期	△7.85	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円		百万円		%	円 銭
22年3月期第2四半期	10,363		3,176		30.6	285.60
21年3月期	9,981		3,307		33.1	297.37

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 3,176百万円 21年3月期 3,307百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	8.00	—	8.00	16.00
22年3月期	—	5.00	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	5.00	10.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	11,283	0.2	395	72.5	303	107.5	135	21.6
								12.14

(注)連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第2四半期 11,856,669株 21年3月期 11,856,669株

② 期末自己株式数 22年3月期第2四半期 735,419株 21年3月期 734,551株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第2四半期 11,121,628株 21年3月期第2四半期 11,130,717株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 平成21年5月11日に公表した予想数値は、本資料において修正しております。

2. 業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。なお、上記予想に関する事項につきましては、3ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報、および本日別途開示する「業績予想の修正等に関するお知らせ」をご覧ください。

・ 定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当社グループは、お客さまの健康を第一に考え、安全で安心のできる美味しい食材をお届けすることを経営の基本にして様々な販売促進活動に励んでおります。

昨今の国内における消費の低迷により、小売業界では非常に難しい舵取りが求められております。当社グループにおきましても、売上面や損益面においてこれが及ぼす影響は少なくありません。しかしながら、当社グループでは、このような状況下においても安定的に売上を向上させるため、販売体制を強化するとともに、メニュー冊子を刷新し、それに伴いお客さまの関心が高い献立面においても新たな試みを始めるなど今後を見据え、ソフト面の充実を図っております。他方、仕入価格の引き下げに加え、作業の効率化、生産性の向上等各種施策の実施により製造経費を抑制するなど、原材料費と経費の双方で売上原価圧縮の効果が見られました。その結果、売上総利益率は42.0%と前年同期に比べ1.6ポイント改善されました。

また、販売費及び一般管理費については、支出の効果の極大化を期し、政策的に支出の対象とタイミングをコントロールした結果、前年同期に比べ51百万円減少しております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は51億95百万円（前年同期比96.2%）となりました。また、経常損失は46百万円（前年同期は74百万円の経常損失）、四半期純損失は50百万円（前年同期は87百万円の四半期純損失）となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

資産の部では、前連結会計年度末に比べ現金及び預金が1億83百万円、土地が1億12百万円それぞれ増加したこと等により、資産合計は前連結会計年度末に比べ3億82百万円増加の103億63百万円となっております。

負債の部では、前連結会計年度末に比べ長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む。）および短期借入金が合計で5億60百万円、未払金が49百万円増加しましたが、買掛金が99百万円、社債（1年内償還予定の社債を含む。）が25百万円減少したこと等により、負債合計は前連結会計年度末に比べ5億13百万円増加の71億87百万円となっております。

純資産の部では、前連結会計年度末に比べ利益剰余金が1億39百万円減少したこと等により、純資産合計は前連結会計年度末に比べ1億31百万円減少の31億76百万円となっております。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当社連結グループの連結業績予想については、平成21年5月11日に公表しました予想数値を変更しております。詳細は、本日付「業績予想の修正等に関するお知らせ」を發表しておりますので、ご覧ください。

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表
(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,571,379	1,388,359
受取手形及び売掛金	38,371	46,611
原材料及び貯蔵品	121,248	121,458
繰延税金資産	113,542	84,877
その他	81,032	33,193
貸倒引当金	△14,427	△14,427
流動資産合計	1,911,148	1,660,072
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,669,857	1,672,377
土地	5,788,645	5,676,443
その他（純額）	222,893	185,644
有形固定資産合計	7,681,396	7,534,465
無形固定資産		
のれん	6,439	7,302
その他	54,406	56,809
無形固定資産合計	60,845	64,112
投資その他の資産		
投資有価証券	272,291	273,294
繰延税金資産	51,389	54,530
その他	403,833	412,004
貸倒引当金	△17,220	△17,220
投資その他の資産合計	710,294	722,608
固定資産合計	8,452,537	8,321,186
資産合計	10,363,685	9,981,259
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	347,761	447,188
短期借入金	1,557,000	1,689,000
1年内返済予定の長期借入金	1,206,292	889,576
未払法人税等	30,947	43,512
賞与引当金	150,000	150,500
その他	696,804	677,284
流動負債合計	3,988,805	3,897,061
固定負債		
社債	343,000	328,000
長期借入金	2,745,548	2,370,212
その他	110,125	78,625
固定負債合計	3,198,673	2,776,837
負債合計	7,187,478	6,673,898

（単位：千円）

	当第2四半期連結会計期間末 （平成21年9月30日）	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 （平成21年3月31日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,148,010	1,148,010
資本剰余金	1,616,944	1,616,938
利益剰余金	889,611	1,028,917
自己株式	△445,932	△445,411
株主資本合計	3,208,633	3,348,455
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△32,426	△41,094
評価・換算差額等合計	△32,426	△41,094
純資産合計	3,176,207	3,307,360
負債純資産合計	10,363,685	9,981,259

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)
売上高	5,402,085	5,195,618
売上原価	3,219,633	3,014,352
売上総利益	2,182,451	2,181,265
販売費及び一般管理費	2,222,072	2,170,605
営業利益又は営業損失(△)	△39,620	10,660
営業外収益		
受取利息	1,518	1,388
受取配当金	1,804	1,421
受取保険金	1,071	617
受取地代家賃	3,895	2,231
受取手数料	4,391	4,228
その他	1,357	2,124
営業外収益合計	14,038	12,011
営業外費用		
支払利息	40,959	44,063
有価証券運用損	—	21,527
その他	7,475	3,926
営業外費用合計	48,435	69,517
経常損失(△)	△74,018	△46,845
特別利益		
固定資産売却益	13,667	—
特別利益合計	13,667	—
特別損失		
固定資産除却損	2,985	10,772
特別損失合計	2,985	10,772
税金等調整前四半期純損失(△)	△63,336	△57,617
法人税、住民税及び事業税	18,111	24,092
法人税等調整額	5,901	△31,381
法人税等合計	24,013	△7,288
四半期純損失(△)	△87,350	△50,328

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

平成22年3月期 第2四半期決算短信(発表資料の要約)

当社の平成22年3月期 第2四半期決算につきまして、配布の決算短信のとおり発表させていただきます。

1. 業績について

イ 当第2四半期累計期間の業績

	(連結)		(個別)	
		前年同期比		前年同期比
売上高	51億95百万円	96.2%	51億89百万円	96.4%
営業利益	10百万円	—%	△13百万円	—%
経常利益	△46百万円	—%	△51百万円	—%
当期純利益	△50百万円	—%	△45百万円	—%
1株当たり当期純利益	△4円53銭		△4円07銭	

(注) 当社の連結対象子会社は、株式会社食文化研究所1社であります。

- ① 売上高は51億95百万円で、前年同期に比べ2億6百万円減少しました。昨今の消費の低迷は当社グループの売上や損益に影響を与えました。しかしながら、当社グループでは、このような状況下においても安定的に顧客軒数と売上高を増加させるため、販売体制を強化するとともに、活字の大きいメニュー冊子に刷新し、献立面におきましても、新たな試みを始めるなど今後を見据えソフト面の充実を図っております。その成果は顧客数の増加という形で現れております。
- ② 経常利益は46百万円の損失(前年同期は74百万円の経常損失)になりました。売上総利益率は野菜の高騰がありましたが、仕入価格の引き下げに努力し、作業の効率化、生産性の向上等各種施策の実施により42.0%と1.6ポイント改善しております。また、販売費については、効果の見込める販促についてのみ政策的に支出し、そのタイミングをコントロールした結果、前年同期に比べ51百万円減少させることができました。
- ③ 四半期純利益は、松阪営業所(三重県松阪市)、山科営業所(京都市山科区)の建替えに伴い発生した費用9百万円を含む固定資産除却損10百万円を計上したこともあり、50百万円の純損失(前年同期は87百万円の四半期純損失)になっております。

ロ 通期の業績予想

	(連結)		(個別)	
		前年同期比		前年同期比
下半期				
売上高	60億88百万円	104.0%	60億72百万円	104.1%
営業利益	3億85百万円	143.7%	3億63百万円	144.6%
経常利益	3億49百万円	158.6%	3億28百万円	162.4%
当期純利益	1億85百万円	93.4%	1億71百万円	95.0%
1株当たり当期純利益	16円63銭		15円38銭	
通期		前期比		前期比
売上高	112億83百万円	100.2%	112億61百万円	100.4%
営業利益	3億95百万円	172.5%	3億50百万円	172.4%
経常利益	3億3百万円	207.5%	2億77百万円	199.3%
当期純利益	1億35百万円	121.6%	1億26百万円	117.8%
1株当たり当期純利益	12円14銭		11円33銭	

2. 株主還元策について

イ 配当金

当中間配当金	1株当たり5円にさせていただきます。
期末配当金予想	1株当たり5円を予定しております。（年間10円を予定しております。）

ロ 株主優待策

毎年3月31日及び9月30日現在の当社株式1千株以上所有の株主に対し、半期8千円（通期16千円）相当の自社製品を進呈いたします。（従来どおり）

3. 財政状態について

財政状態は、決算短信3ページ 2 連結財政状態に関する定性的情報に記載のとおりです。

自己資本比率は、前期末の33.1%から30.6%になりました。この主な理由は、利益剰余金の減少によるものであります。

1株当たり純資産は、前期末の297円37銭から285円60銭になりました。

4. 設備投資について

当第2四半期 累計期間	設備金額	1億85百万円 主なものは	
		営業所用地	滋賀県大津市 91百万円 名古屋市北区 20百万円
		建物設備等新築費用	山科営業所 34百万円 松阪営業所 29百万円
		その他	8百万円
	減価償却費	94百万円	
通期予想	設備金額	当第2四半期累計期間分を含め、2億26百万円を予定しております。	
		内訳	営業所建物設備等 64百万円（2件） 営業所用地 1億12百万円 その他 50百万円
	減価償却費	2億円	

5. 通期の見通しについて

売上高につきましては、当第2四半期連結累計期間末に行ったメニュー冊子の刷新とそれに伴う献立の改善、全社一斉に取り組んでおります営業体制の強化等の効果が現れ、顧客数に増加傾向が見られるようになりました。下期につきましては、この傾向をさらに加速させた上、より販売体制を強固なものにすることにより受注の増加に努めてまいります。

また、特に年末のおせちの販売等に力を注ぎ、通期における売上増加に向けて全力を尽くしてまいります。

以上、当第2四半期連結累計期間の業績の結果及び下期の見通しにより、通期の業績につきましては、前回発表予想（平成21年5月11日発表）を修正し、売上高は112億83百万円、営業利益は3億95百万円、経常利益は3億3百万円、当期純利益は1億35百万円を予定しております。

以 上